

【今週の注目疾患】

流行性角結膜炎

流行性角結膜炎は、アデノウイルス（8、19、37、53、54、56型など）による疾患で、一般に「はやり目」と呼ばれている感染症である。感染すると8～14日の潜伏期を経て急に発症し、結膜の充血、眼瞼の浮腫や流涙、ときに耳の前のリンパ節の腫脹を伴う。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下し、角膜表面の小さな濁りが数か月から数年残ることがある。結膜炎が出血性となり、出血性結膜炎（エンテロウイルス70型、コクサッキーウイルスA群24型変異株による）や咽頭結膜熱との鑑別を要することがある他、ヘルペスウイルスや、クラミジアによる眼疾患との鑑別が必要である。両眼が感染しやすいが、初発眼の症状がより強いとされている。

感染は、職場・学校や家庭などで、ウイルスにより汚染されたティッシュペーパー、タオル、洗面器などに触れるなどして生じ、季節としては8月を中心として夏に多いが、明瞭な季節性を示さないこともある。

年齢では1～5歳を中心とする小児から成人まで幅広い年齢層にみられる。原因となるアデノウイルス全般について有効な薬剤はなく、対症療法的に抗炎症剤、ステロイド剤の点眼が使用されることがある。細菌の混合感染の可能性に対しては、抗菌剤の点眼が行われる。

感染予防の基本は接触感染予防の徹底であり、患者本人やその周囲の者はタオルや点眼液などに目接触するものは個人用とすることが重要である。

千葉県において2017年第13週に37例が報告され、報告定点当たりの週間患者数は1.06人であった。年齢群別では30～39歳（9例）で最も多く、次いで40～49歳（8例）、50～59歳（5例）であった。直近5週（第9～13週）における各週の定点当たり患者数が、過去5年の同時期と比較し多く、今後の推移に注意する必要がある（図1）。第13週における報告数上位3保健所とその定点当たり患者数は、習志野（3.7）、市原（3.0）、印旛（2.0）となっている（図2）。

引用・参考：

国立感染症研究所 流行性角結膜炎とは <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/528-ekc.html>

